

### 1 自己評価及び外部評価票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2090300092		
法人名	社会福祉法人 山栄会		
事業所名	グループホーム諏訪形		
所在地	上田市諏訪形1694-4		
自己評価作成日	平成30年10月15日	評価結果市町村受理日	平成31年3月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kaigo.nsyakyo.or.jp/modules/general/general_divindex.php?jigyō=2090300092">http://kaigo.nsyakyo.or.jp/modules/general/general_divindex.php?jigyō=2090300092</a>
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 医療福祉事業部		
所在地	長野県松本市巾上13-6		
訪問調査日	平成30年10月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>私たちは、入居者と家族の尊厳や願いを最大限尊重し、その人らしい人生の継続の支援に取り組んでいきます</p>
----------------------------------------------------------

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>10年目を迎える当事業所は、上田市の自然豊かな山の中腹に位置し、静かなところで、「その人らしく豊かな生活を支えていく」との理念のもと、利用者がゆったりと生活している。庭には畑があり、作った野菜が食卓に並んだり、稲の栽培も行い、収穫したお米をいただくことはもちろん、わらも活用し正月飾りを作る等家庭的な生活を提供している。また、地域との関係も良好で、協力関係も取れている。併設のデイサービスとの連携もあり、馴染みの方との交流もある。</p>
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

ユニット名( )		項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	フロア内に理念が掲げられ、朝礼時等に輪読し職員全員で共有している。	利用者の尊厳を大切にし、地域への認知症の発信の役割もふまえた理念が作られ、職員もその理念のもと、あらゆる場面で「待つ」姿勢を大切にした実践が行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の文化祭に作品を出品し、当日、観賞をしに公民館を訪れている。	地区の自治会に加入しており、地区の文化祭への参加、また、近隣の保育園との交流もあり、毎週ボランティアの来所がある。近所の方からは、野菜の差し入れがあり、地域の方が気軽に立ち寄れる場所となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者が近所を散歩する姿などを通して、自由な生活、人として当たり前の生活を理解してもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者が参加し意見、思いを出しやすい会議の持ち方を工夫して、サービスのあり方・方法を検討している。	上田市の介護保険課、地域包括支援センターの職員、所属の区長、隣接する他地区の区長、民生委員、家族、利用者の参加を得て定期的に開催され、特にイベント時(夏祭り、防災訓練等)に合わせ、事業所の様子を知っていただけよう工夫している。	開催の曜日等検討し、参加者が出席しやすいようにし、議事録についても工夫し、外部への公表することが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市が開催する研修には必ず出席し、保険者の情報を得ている。運営推進会議への出席を依頼し、市も欠かさず出席している。	制度的な確認等細かいことを常に相談し、事業所の実情など積極的に伝え指示を仰ぎながら、協力関係が密にとられている。	

自己評価及び外部評価票【諏訪形】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関等の鍵は夜間は防犯のために施錠するが、日中は解放し危険行為に及ばない戸外活動を推進している。	法人の教育委員会主催の勉強会にて、身体拘束の具体的な禁止行為や拘束に伴う精神的苦痛の理解が職員全員に周知されている。玄関の施錠については、現在やむを得ず、利用者の状態に合わせ30分程度施錠することもあるとの話があり、今後検討していくとのことだった。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	介護保険情報などにより、虐待の現場の背景にあるものに関心を寄せ、自らの事業所を振り返っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域ケア会議で成年後見制度を学んだ。ケアカンファレンスにおいて、その必要性や意義を話し合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	新規契約時には、十分な説明を行い、月ごとの報告でも不安や疑問点への投げかけを行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付は、玄関入口に記入用紙を置き苦情を言いやすい雰囲気づくりに努めている。また、計画作成に反映する必要がある事項は関係各位と会議を持ち、検討したうえで応じている。	苦情受付箱が玄関に用意されているが、ほとんど来所時に口頭で直接職員に伝えられる言いやすい雰囲気になっている。内容によっては、迅速にプランに反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員が自由な発想で意見提言を出せるよう、サービス規程に提唱している。	法人の理事長が年2回、事務長、施設長がそれぞれ年1回以上職員との面接を行い、意見を聞く機会を設けている。また、日頃も常に提案や意見を言いやすい雰囲気になるよう努力している。	

自己評価及び外部評価票【諏訪形】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	個々の職員の個性を尊重し、長所・短所の把握に努め、助言しモチベーションの維持向上を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画に沿い、研修マニュアルを活用し内部研修だけでなく専門職能団体が開催する研修にも積極的に参加している。一人ひとりが資格取得に意欲がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議、介護支援専門員協会、介護福祉士会、物忘れネットワークなど人事交流の場で交流をし、他事業所の様子を聴いている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人及び家族と面談しニーズを把握している。そのニーズに対し、センター方式を用いて課題分析を行い、本人及び家族の支援方針を決定している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人及び家族の思いを傾聴し、サービスを開始する前にカンファレンスを開催し、職員全員が情報の共有を図り、不安等を軽減できるように支援している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居初期段階から、本人および家族の意思を尊重した生活を送っていただけるように心掛けている。ニーズの解決の為、優先順位を提示し本人および家族と協議しサービスの方向性を示し支援している。		

自己評価及び外部評価票【諏訪形】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者に対し、常に試行錯誤し、在宅での生活を知ることによって理解を深める。利用者の役割を奪わないような支援を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月ごとに、入居の様子を各担当職員が用紙に記入し通知している。衣類等の身の回り品を家族に用意してもらったりなどし、本人と家族の関係を断ち切らない様になっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	支援が可能な限り、外食・買い物等の機会を作り、日常会話の中に出てくる場所や、懐かしい場所に行ける様ように配慮している。また、普段の会話の中でも、家族の名前や住んでいた場所など馴染みのある場所の話題を提供し、思い出してもらえるように会話に努めている。	併設しているデイサービスの利用者が来たり、日常的な買い物に出かけたり、自宅や墓参り等本人の望む場所への外出をできる限り行っている。また散歩に出かけ、近所の方と会話を楽しむこともある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりの個別性、関係性に配慮し、席についてもらうようにしている。利用者が孤立したり険悪な関係にならないように、職員が間に入り談笑できる環境、雰囲気づくりを心掛けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後でも何らかの相談があった場合は、対応が出来るように努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	カンファレンスを月1回開催し、利用者の気持ちをふまえた意見交換を行っている。職員本位になっていないか、また利用者の立場・気持ちになって考え検討し、常に利用者本位のケアになるよう気を付けている。	生活歴や家族の話からヒントを得て、あらゆることを実践し、利用者の意向を探る工夫をしている。絵手紙、大正琴、畑仕事等具体的に提供し、利用者の表情を見ながら常に利用者が好きなように過ごせるよう心掛けている。	

自己評価及び外部評価票【諏訪形】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者や家族とのコミュニケーションの中で知り得た情報を、カンファレンスで確認・検討し情報の共有を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	焦点情報への記入、水分排泄管理表で現状の把握に努めており、日々の変化に対しても勤務交代時に申し送りを行い、情報の共有・理解に努めている。また、連絡ノート等を利用し、記録することによって的確に把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族から要望が出た際等、必要に応じて本人・家族・職員とカンファレンスを行い計画の見直し、アセスメント、モニタリングなどの計画を作成している。	月1回のカンファレンスの下準備を入念に行い、会議では職員全員の多角的な意見を集約し、アセスメント、モニタリングを経て具体的なプランに反映されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々、焦点情報に時系列を追って記入するようになってきている。ひもときシートを活用しながらアセスメントを行い、状況に応じて介護計画の見直しを適宜行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者及び家族の立場に立ち、発生したニーズを取り巻く要因等にも目を向けながら、迅速に対応できるように心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市の職員・民生委員など参加する運営推進会議をはじめ、地域のボランティア、地域の住民との交流など、利用者が地域の一人として暮らしていることを実感できるように努めている。		

自己評価及び外部評価票【諏訪形】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者が入所する前からのかかりつけ医を受診している。その際は家族の付き添いにて受診している。	入所前からのかかりつけ医が継続され、家族の付き添いにより受診している。医療連携表を活用し詳細な情報が共有されている。急変時には職員が同行し家族への報告も迅速に行っている。また、外部の付き添いサービスも自費で行える体制になっている。	現在のかかりつけ医との連携をより強固なものに、さらなる医療の充実が図れることを期待する。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	身体的な気づきや異変は、職場内の看護師に相談し、家族、かかりつけ医に報告・連絡・相談をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した時には、焦点情報、バイタル経過、水分排泄状況、食事形態・摂取量等記録の複写を提出している。入院中においては、病院関係者、家族から情報ももらい、療養中の情報を得ている。退院後の生活の組み立てを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、当施設は、看取り介護を行っていないことを本人、家族に説明を行っている。	現在看取りを行う体制にはなっていないが、常時医療が必要となり一般浴も難しい状態になった利用者に対しては、近隣の特別養護老人ホームや老人保健施設等と連携を取り、受け入れ可能な体制になっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	判断を仰ぐ連絡網を整備して、緊急体制に備えている。救命救急法やAEDの操作の講習会を毎年行い、全職員が受講している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自治会と災害時協力応援体制を結んでいる。防災訓練も定期的に行い、夜間を想定した訓練も行っている。	ハザードマップを活用し、起こりうる災害についての理解はされている。自然災害については避難場所の確保や地域住民との協力体制もできている。また、消防署、民間の警備会社、地域の方の参加を得て、年2回通報訓練をはじめとした全般の訓練を行っている。	自然災害時(洪水、土砂災害 停電等)のマニュアル作成を行い、備蓄品の確認等災害対策のさらなる努力を期待する。

自己評価及び外部評価票【諏訪形】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念にも一人ひとりの尊重が唱われており人格の尊重、言葉掛け、対応については研修の場を設けている。	利用者一人ひとりの尊厳を大切にし、トイレの声掛けは小さな声で行ったり、入浴時など羞恥心に配慮したりと、きめ細かな配慮がされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	遠慮なく本人が思い、自己決定を言えるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活の流れを一律にするのではなく、タイミング、ペースを個人個人に合わせ、体調に考慮し外出も行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	3ヶ月に一度、美容師が出張し、散髪、髪染めを行っている。本人の希望を職員が代弁している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の物、行事食、利用者の食べたい物なども献立に入れている。準備、下膳、食器洗いなど利用者と職員が一緒に行っている。	行事食(おはぎ、ちらし寿司、おせち料理等)を充実させたり、日々のメニューも利用者のリクエストに合わせて工夫している。また、庭で収穫した野菜が食卓に彩を添えたり、自家製の米も利用者の食べる楽しみになっている。食事の準備、下膳、食器洗い等自然に行われていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、おやつ時の水分提供以外に必要と思われる時には、意図的に勤めている。		

自己評価及び外部評価票【諏訪形】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	下膳後洗面所で口腔ケアの促しを行っている。個別の能力に応じて必要な介助を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	リハビリパンツ使用の方も布パンツとなるように時間やタイミングを観察し、自立に向けた支援となるよう取り組んでいる。	一人ひとり排泄パターンを把握し、排泄の自立に力を入れている。リハビリパンツから布パンツへ改善したケースもあったとのこと。夜間の排泄についても利用者本位で、尚且つ利用者の意向を大切に、取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	10時には牛乳を使用した飲み物を出し、水分をしっかりと摂取するよう声掛けを行い、日常で下半身の運動を個々の調子を見て行っている。前かがみの姿勢で下肢の力や、腹筋を使って自然排便ができるよう取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日は決めているが、希望があれば浴えるようにしている。衣類の選択、入浴時間など利用者と決め、羞恥心に配慮し担当職員を変えている。	原則週2回午後入浴を基本としているが利用者の意向に合わせて臨機応変に対応している。浴室はあらゆる場面を想定し、安全に入浴できるよう手すりが四方に設置されていた。入浴を楽しめるよう季節風呂（林檎、薔薇、菖蒲、柚子等）の提供をしている。本人の意向に合わせて同性介助を基本としている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夏はエアコンを使用し、冬は足元に湯たんぽを使用し、スムーズな入眠ができるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師より処方された薬は、薬局で調剤してもらい、薬剤説明書を受け取り保管している。内容を熟知し、変化や効用について注意深く観察している。		

自己評価及び外部評価票【諏訪形】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	朝の掃除のモップがけ、台拭きを行い、趣味を楽しめるよう環境を作り、縫物は張り合いや目的達成の喜びとなっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	墓参り、買い物、外食など家人に連絡したり、利用者全員での外食も行っている。	家族の協力を得ながら、花見、紅葉狩り、道の駅への買い物、レストランでの外食、上田公園への散策等できるだけ機会を見つけ外出している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	当施設の既定により金銭は家人の管理となっているが、必要に応じ家人より預かり利用者から支払えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望された際は、夜間でも対応し手紙は自由に書いていただく支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ひざ掛けなどを活用し、温度、湿度など気を配っている。天窓や窓からの明るさもカーテンなどで調節している。季節を感じられるよう、季節ごとの花を飾ったり混乱を招かないよう工夫している。	キッチンからフロア全体が見渡せ、照明も柔らかい光で、ゆったり落ち着ける雰囲気になっていた。壁には利用者の作品や季節の花が飾られ、居心地の良い空間が提供されていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ベランダ前にソファを置き、談笑を楽しむよう工夫している。		

自己評価及び外部評価票【諏訪形】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物、お気に入りの物等は常に目に触れる場所に置き、馴染みの品々に囲まれた環境づくりを心掛けている。	自宅を思わせるような生活感のある部屋になっており、使い慣れた小物や愛着のあるものが整理され置かれていた。窓からは景色もよく季節を感じられた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	運動機能が維持できることを目標に、出来る事が低下しないよう、わかることを周囲の人から承認されるよう場面づくりをしている。		

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議を開催する曜日等を検討し、参加者が出席しやすいようにし、議事録についても工夫し、外部へ公表することが望まれる。	「参加しやすい運営推進会議にする」	○施設内で検討会議を開催する。 ○運営推進会議内で聞き取りを実施する。	12ヶ月
2	30	現在のかかりつけ医との連携をより強固なものに、さらなる医療の充実が図れることを期待する。	「かかりつけ医との連携を強化する」	○施設内で検討委員会を開催する。	12ヶ月
3	35	自然災害時(洪水、土砂災害 停電等)のマニュアル作成を行い、備蓄品の確認等災害対策のさらなる努力を期待する。	「防災対応の見直しを図る」	○施設内で検討会議を開催する。 ○マニュアルの作成を開始する。	12ヶ月
4					
5					

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。